地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院

無料(ご自由にお持ち帰りください)

こんにちは

2016 秋号 vol.12

病院と地域をつなぐ情報誌

第1回病院まつり
旭中央病院では地域住民のみなさんとの交流・ふれあいを目指して、9月24日に「第1回病院まつり」を開催しました。
本号では病院まつりの様子を特集でご紹介します。

目次

▶ 特集 第1回 病院まつり
●第1回 病院まつりを開催して 2
●特別講演要旨 2
●写真で見る病院まつり 4
●出展者に聞きました! 7

▶ やさしい医学講座 第12回 歯科CT 10

▶ かかりつけ医を持ちましょう 第12回 銚子市・大野眼科 11

▶ 病院からのお知らせ 12

第1回 病院まつり

9月24日(土)に旭中央病院では
初めてとなる「病院まつり」を開催し、
約2,300人の方々にご参加いただきました。
当日お越しいただきました地域住民の方々に
感謝申し上げますとともに、
当日の様子を一部ですが、ご紹介いたします。

第1回病院まつりを開催して

実行委員長 中津 裕臣 医師

この度は、第1回旭中央病院 病院まつりに多数のご来場、誠にありがとうございました。気軽に参加・楽しく学べる・地域と病院の相互交流を目指して企画されたこの祭は、『みんなで高める健康意識』を第1回のテーマとし、院内外から数十のグループの協力を得ました。特別講演、市民講座、展示・体験ブース、健康ランチ、付属施設の文化祭同時開催など、実行委員会の予想を遥かに上回る多彩なイベントへの昇華に心より感謝しております。そして、ご来場いただいた方々とスタッフの笑顔が、私たちの何よりの宝になりました。

東総地域の皆様の健康な暮らし作りに貢献できるよう、この祭を定期開催とし、様々な企画を考えていきますので、どうぞこれからも病院まつりをお楽しみいただきたく存じます。

病院まつり 特別講演

メイン会場では、10時40分～12時10分にかけて特別講演が行われ、旭中央病院　田中信孝病院長、旭匝瑳医師会理事 福島俊之先生、海匝健康福祉センター長 井元浩平先生より、当地域の医療についてそれぞれの立場からお話をいただきました。以下に要旨をご紹介します。

特別講演1

すべては患者様のために
―旭中央病院のあゆみ―

総合病院国保旭中央病院 田中 信孝 病院長

これまでも、これからも、地域の皆さんとともに

旭中央病院は昭和28年に病床数113床、医師8名で設立され、今年で63年目を迎えます。当院の礎を築き、地域医療の発展に多大な貢献をした初代病院長 諸橋芳夫の志を「すべては患者様のために」の基本理念として受け継ぎ、病床数989床、医師数約250名の日本で有数の公立病院に成長しました。現在は患者さんのうちの約7割を旭市外から受け入れ、地域のがん診療、救急医療、周産期医療、リハビリ、高齢者医療等の拠点として、多くの役割を担っています。内視鏡的治療、胸腔鏡的・腹腔鏡的治療、脳血管内治療、化学療法、放射線治療といった高度治療に対応できる最先端の施設・設備を備える一方で、患者さんへの温かいおもてなし、思いやりの心を大切にしています。

安心で安全な医療のために

当院は香取海匝医療圏で唯一の高度急性期医療を担う病院としての役割から、今後も地域の医療機関の先生方との機能分担を図り、連携を密にしながら診療を行っていきます。また、患者さんは医療の「パートナー」であり、チーム医療における「チームの中心」です。安全な医療のため、患者さんには情報共有(例:アレルギー歴、服用薬情報)、治療・検査・ケアの実施への協力(例:姓名・生年月日による本人確認、リストバンド)、自己管理(例:禁煙)等をお願いしておりますのでご協力くださるようお願い致します。これからも「すべては患者様のために」の理念を心に刻みながら、安心で安全な医療を実践してまいります。

特別講演3

地域（海匝管内）の健康課題

海匝健康福祉センター長　井元（いもと）浩平（こうへい）先生

海匝地域に多い病気は、胃がん、心疾患、脳血管疾患

海匝地域の平均寿命を全国平均（男性79.6歳、女性86.4歳）、千葉県平均（男性79.0歳、女性86.2歳）と比較すると、銚子市（男性77.8歳、女性84.9歳）はやや短く、旭市（男性79.0歳、女性86.1歳）、匝瑳市（男性79.9歳、女性85.8歳）は平均並みです（平成22年）。一方、疾患別に見ると、海匝地域は胃がん、心疾患、脳血管疾患が多いことがわかります。

胃がん対策は血液検査

胃がんの原因と言うと塩分というイメージがあるかもしれませんが、「ピロリ菌」が胃がんの発症に大きく関係するとも言われています。胃がん検診のほか、胃の症状（胃潰瘍や慢性胃炎）のある方は血液検査と内視鏡検査を受けることでピロリ菌感染の有無を調べることができます。ピロリ菌の存在が確認された場合は、除菌を行うことで将来の胃がんのリスクを下げることにつながります。なお、当地域の塩分摂取量は11gで、飛びぬけて高くはないので、減塩についてはこれまでの取り組みを継続していただければ良いと思います。

心疾患と脳血管疾患対策は、高血圧予防と糖尿病予防

高血圧予防としては、減塩・体重・ストレス対策、糖尿病予防としては野菜・体重・ストレス対策が重要です。海匝地域の女性はふくよかな方が多く、糖尿病の死亡率も県平均と比較して銚子市で男女2倍、旭市・匝瑳市の女性で4割高いというデータがあります。この地域は野菜の生産地ですが、調査によると野菜の摂取量が少ないようです。予防として大切なのは野菜を食事の「最初に」たくさん食べること、外出の機会を増やし、駐車場はちょっと遠くに止めて歩くなどの心がけです。そしてストレス対策はずばり「愚痴ること」！男性の方々は苦手かもしれませんが、周りに愚痴をこぼせるような気の置けない友人を持ち、孤立しないことが大切です。

特別講演2

かかりつけ医について
―旭中央病院との連携―

旭匝瑳医師会理事　福島医院院長　福島（ふくしま）俊之（としゆき）先生

かかりつけ医と旭中央病院との密な連携

「かかりつけ医」について、厚生労働省は「身近な地域で日常的な診療を受けたり、健康の相談等ができる医師」、日本医師会は「何でも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師」と定義しています。旭市民の方にとっては「私のかかりつけ医は旭中央病院」という思いがあるかもしれませんね。しかし旭中央病院から近所の医院に移るのを勧められる、イコール「旭中央病院にかからなくても良いほど、状態が安定した」ということなのです。「旭中央病院との縁が切れてしまう」と心配される方がいらっしゃるかもしれませんが、「かかりつけ医を通じて旭中央病院と繋がっている」とお考えいただければと思います。私たちかかりつけ医は旭中央病院と①電子カルテ導入による情報共有、②C@RNAシステムによる画像診断予約、③糖尿病教室の利用、④講演会、勉強会、医療連携懇談会などに出席（顔の見える医療連携）、⑤状態の安定した患者さんの診療（共同診療）など、日頃から密に連携し、必要な時には旭中央病院の専門医を紹介できる体制を整えています。

「在宅医療」という選択

匝瑳では平成14年から10の医院が「在宅患者24時間支援システム」を立ち上げ、寝たきりで通院ができない患者さんへの在宅医療を協力しながら行っています。かかりつけ医が定期的な訪問診療を行い、緊急時にはかかりつけ医の携帯電話に患者さん（家族）が直接連絡できるようになっていますが、連絡がつかない時には当番医（10人の医師が1週間交代で担当）が連絡を受けるシステムです。病気や高齢になっても病院や施設ではなく、いつまでも住み慣れた自宅で過ごしたいと望む方は多いことと思います。そのような方にとっては私たちかかりつけ医がお役に立てることがあるのではないかと思います。

写真で見る病院まつり

メイン会場

オープニングコンサート【旭市立第二中学校 吹奏楽部】

開会宣言【田中病院長】

特別講演 右から 座長 中津裕臣実行委員長／演者 田中信孝病院長／旭匝瑳医師会理事 福島俊之先生／海匝健康福祉センター 井元浩平センター長

健康チェックエリア

血圧、血糖値、体脂肪、血管年齢、体成分分析、身体測定
【健康づくり支援委員会、他】

糖尿病に関する相談
【糖尿病サポートチーム】

安全室による市民参加型
転倒・転落予防
【医療安全管理推進委員会】

手洗いとマスクの付け方
【感染対策室】

物忘れテスト
【認知症疾患医療センター】

第58回市民健康講座
上から
座長　健康づくり支援委員会　仙田昌義医師
演者　リハビリテーション科　藤本幹雄部長
　　　神経内科　松永高志主任部長

展示・実演エリア

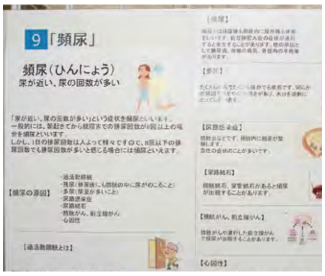
歯科わくわく体験
【歯科・歯科口腔外科】

元気で長生きしよう
【糖尿病サポートチーム】

緩和ケアの紹介
【緩和ケア病棟】

旭中央病院の歴史、地域医療連携への取組み【病院まつり実行委員会、紹介患者センター会議】

ロボット支援手術の進歩
【泌尿器科】


頻尿
【泌尿器科】

消化器内科による超音波検査の紹介
【消化器内科】

内視鏡手術シミュレーター体験
【呼吸器外科】

知っておきたい身体にいいこと、悪いこと!!
【海匝健康福祉センター】

病院のお薬ができるまで
【薬剤局】

漢方と薬用植物
【旭匝瑳薬剤師会】

介護を必要とする身体にならないために
【リハビリテーション科】

役立つ救命処置
【救急外来・旭市消防本部】

災害時に役立つ知識
【災害対策委員会】

介護関連展示、介護相談現場のプロがお答えします!!【老人ホーム東総園・シルバーケアセンター】

旭中央病院こども薬局開設
【薬剤局】

病院食の紹介
【臨床栄養科】

みんなであそぼう! やたい(屋台)がいっぱい
【おもてなし委員会】

院内クラブによる作品の展示
【書道クラブ】

院内クラブによる作品の展示
【華道クラブ】

写真で見る病院まつり

介護・リハビリ体験コーナー

リハビリ科による介護予防～介護を必要とする身体にならないために～【リハビリテーション科】

職員食堂 オアシス

職員食堂一般開放　当院臨床栄養科監修!限定健康ランチの販売

屋外イベントエリア

新生児救急車(NICU)【車両課】

地震体験車【災害対策委員会】

展示・実演エリア

前向きに生きよう
【神経精神科】

乳がん啓発活動
【乳腺センター】

児童虐待防止・オレンジリボン活動
【FAST(家族支援チーム)】

産科体験エリア

出産・育児に向けてイメージづくり「体験型ファミリー教室」【産科】

同日開催イベント

シルバーケアセンター「文化祭」

附属看護専門学校 第53回「彩花祭」

職員らによる音楽・パフォーマンス
「AC-Junction」

ケアハウスのおまつり「ケアフェス」

出展者に聞きました!

出展の内容や地域住民の皆さんへの
メッセージ等を聞きました。

市民健康講座
「楽しい生活は脳の健康から ～ストップ! 脳卒中/認知症～」

●神経内科主任部長 松永(まつなが) 高志(たかし) 医師

9月24日第1回病院まつりの日、前日まで研究会があり、私は青森県八戸市で朝を迎えました。以前から講師のお話をいただき、自分自身も楽しみにしていた病院まつりの市民公開講座ですから、「絶対遅れないぞ」と東北新幹線は一番早く駅に着く1号車を確保！（注；ここで笑った方は認知症ではありません）、その甲斐あって12時前に病院に到着しました。

玄関をはいると出展した各ブースはすでに大賑わい、来場者の多さに驚き、喜び、講演に向けて緊張が高まります（私あがり症です）。1階を一回り見学した後、講演会場のしおさいホールへ。こちらも大勢の方が参加してくださいました。リハビリテーション科 藤本先生の名講義につづいて私の番。病院まつりのメインテーマ「みんなで高める健康意識」を受けて、題名を「楽しい生活は脳の健康から ～ストップ！ 脳卒中／認知症～」としました。脳卒中について、病気を理解し、高血圧症、糖尿病、喫煙、大量飲酒などの危険因子に対してどう対処するかを解説、また脳卒中の症状を簡単に見分ける方法と「脳卒中かな?と思ったらすぐ病院へ」について説明しました。認知症については、患者数の動向、中核症状と周辺症状、正常なもの忘れと認知症の違い、アルツハイマー病などを解説し、最後に持論も含めて身体と気持ちの両面から認知症の予防についてお話しました。欲張って2大疾患を詰め込んだので、聞いている方は消化不良にならないか心配でしたが、幸い皆さん最後まで熱心に聴いて下さり、最後には温かい拍手をいただき感動！ 私にとっても長いけど素敵な1日になりました。ありがとうございました。

さて、会場でもお話しましたが、健康は人生の目的ではありません。時には不健康を承知で、徹夜で仕事や看病をすることもあります。健康は楽しい人生、有意義な人生のための一つの条件で、その点では家族、友人、心のゆとり、自由に使える時間などと同様です。その中でも、脳の健康を失うと人生の楽しさを大きく損なうことになりやすいので、できる限り健康を維持していただきたいと思います。これが今回の講演への私の思いでもあります。

第1回病院まつりは大盛況のうちに終了しました。第2回以後の詳細は未定とのことですが、今回の達成感と反省をもとに更に発展していければいいなと思います。皆様には今後とも、病院まつりを、病院を、病院職員を育てていただけますようお願い申し上げます。

手洗いとマスクの付け方

●感染対策室 主任・感染管理認定看護師 宮本(みやもと) 頼子(よりこ) 看護師

感染対策室からは手洗いチェックとマスクの付け方についてレクチャーしました。これから冬季に向けてインフルエンザなどが流行してきます。感染予防の1番は手洗いです。1番簡単にできて、最も効果があるのが手洗いです。この機会に自分の手洗いを見直してみませんか？　蛍光剤とブラックライトを使ってどれだけ手洗いできているか見てみました。そこにはあなたの知らない世界が待っていた…かも?!

手洗いと同様、マスクも感染対策の重要なアイテムです。誰でも簡単に付けられますよね。でも、間違った付け方では予防はできません！ 正しいマスクの付け方といけない付け方を経験していただきました！

参加していただいた方には、豪華(?)景品を用意しました。また、展示会場にお越しの方にも、記念品をお渡ししました。地域の皆様の感染防止に役立てていただけましたら、幸いです。

手洗いチェックブース

記念品をお渡ししました

出展者に聞きました!

ロボット支援手術の進歩

●泌尿器科部長　鈴木 規之 医師

出展内容

手術支援ロボット ダヴィンチはアメリカで開発され、日本でも2012年4月より前立腺がんで、2016年4月より腎がんで、保険を使った治療が認められています。当院では2013年1月より前立腺がんで、2015年12月より腎がんでこのダヴィンチを使用した手術を開始し、2016年8月までに前立腺がんは154例、腎がんは6例の手術を行っています。

10倍に拡大し、細かいところも立体的によく見える目、人間以上に繊細に、よく動く関節をもった手をもつダヴィンチを使用した手術は、これまでの手術をより精密に行うことを可能にしました。このダヴィンチ手術とはどういうものかを理解していただくために、画像を含めた説明をし、このロボットを体感していただくために、ダヴィンチのシミュレーターを実際に操作してもらいました。

鈴木 規之 医師

地域住民の方々へのメッセージ

当院での腎がんのダヴィンチ手術は、まだ保険で行うことが認められていません。ダヴィンチによる腎がん手術を10例以上経験した医師が常勤で働いていることが、保険診療を行う上での条件となっているためです。そのため現在ではこの手術は自費診療として行われています。1日も早くこの手術を保険診療で行えるように努力をしているところです。また外科領域でも、2013年8月より胃がんのダヴィンチ手術を自費診療で開始しており、大腸がんのダヴィンチ手術も始められるように準備中です。

このように当院では常に最先端の治療を、地域の皆様にお届けできるように努力しています。ただし、すべての前立腺がん、腎がん、胃がん、大腸がんの方にとって、このダヴィンチ手術が最善の治療法とは限りません。その患者さんにとって手術治療がよいのか、手術治療の中でもダヴィンチ手術がよいのかはそれぞれの患者さんの病状によって異なります。担当の医師とよく相談して、治療法を決めることが大切です。

手術支援ロボット「ダヴィンチ」のシミュレーター

安全室による市民参加型 転倒・転落予防

●医療安全管理推進室師長　白土 てる子 看護師

医療安全管理推進委員会では、患者さんに安全で安心して医療サービスを受けて頂くため、業務の見直しや安全のしくみ作り、職員の研修を行っています。今回の病院まつりでは、特に患者さんにご協力頂きたい「転倒防止対策」をテーマに上げました。転倒は、誰にでも、どこでも起こり得る事故であり、受傷の程度によって、今までの生活が一変してしまうため、注意が必要です。それには、安全な環境整備と適切な援助、個々人の注意が必要です。入院中の転倒防止対策について「転ばぬ先の知恵」のDVDを流しました。また、高齢者疑似体験をして頂き、年を重ねるとともに関節の動きづらさ、視力・聴力や筋力の低下という変化から転倒のみならずいろいろな危険があることを実感して頂きました。参加者は、小学1年生～75歳まで44名でした。年齢制限を60歳までとしていましたが実年齢よりも若いと判断し、年齢制限以上の方にも体験していただきました。参加された方々からは「大変!!周囲が見えず、書くことも読むこともやっとです。段差とか人の動きのあるところは、怖くて歩くのがいやになります」「おじいちゃん、おばあちゃんの気持ちがわかった」「お年寄りが困っていたら助けようと思いました」「ピンピンコロリがよいです」などたくさんの意見を頂きました。今回、体験されなかった方、是非、次回体験してみて下さい。

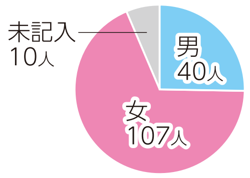
DVD「転ばぬ先の知恵～水戸光圀入院す～」にちなんだ記念撮影看板の前で

体験の様子

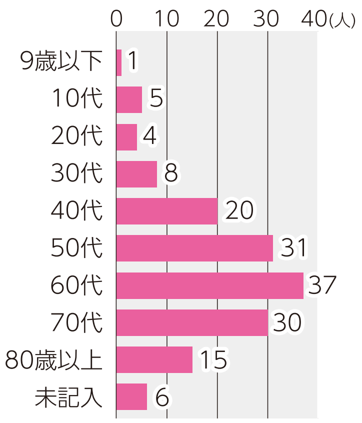
病院まつりアンケート結果(抜粋)

アンケート配布数：1,145枚　回答者：157名

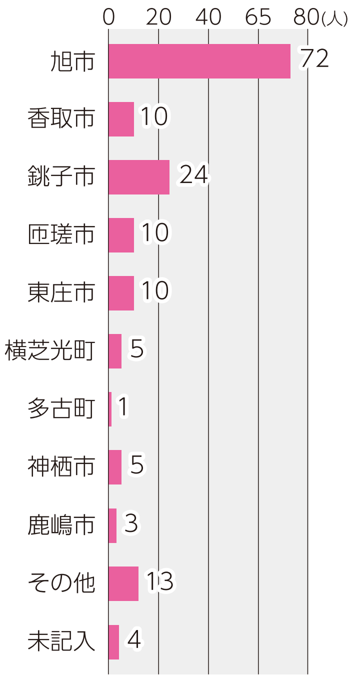
性別



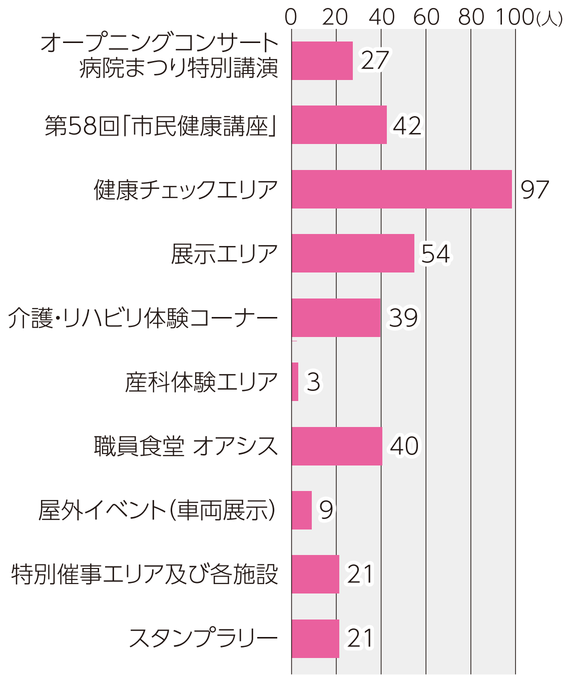
年齢



住所



興味があったのは、どの分野ですか(複数回答可)



【楽しかった、ためになった】

●病院内がいつもと違い、楽しい感じで親しみがあって良かったです。(10代女性)

●普段健康な人は病気でないと病院に来る機会がないので、このようなイベントがあると来院することができて、とても良いと思います。(60代女性)

●このような催しはとてもよい企画です。特に健康チェックは地域の健康意識を高めよいと思います。また、普段では体験できない医療機器にも触れる事が出来ました。職員の皆様ご苦労さまです。未来の医療を担う看護学校の皆さまも一生懸命でした。楽しい企画でした。ありがとうございました。(50代女性)

【普段見られないものが見られて良かった】

●色々な物に実際に触れて体験したりして、見た事はあったけど、知らなかった事などがわかったので、来て良かったです。(50代女性)

●初めての体験が色々できて楽しかった。また来年あったらぜひ参加したいと思いました。有意義な時間を過ごせて良かったと思いました。(60代女性)

【特別講演・市民健康講座について】

●最初のまつりにしては最良の部だと思います。講演がたいへん良かった。(60代女性)

●スタッフの方、職員の方々、とても一生懸命で笑顔で対応してくれて、特別講演も病院のあゆみ、かかりつけ医、健康の事、頷きながら聞かせて頂きました。とても良かったです!(60代女性)

●参考になるお話をたくさん聞かせて頂き、ありがとうございました。私は香取市在住ですが、香取市では、かかりつけ医と病院の連携が整っていません。かかりつけ医との連携はとても良いと思いました。(50代女性)

【院内外からの出展について】

●超音波はわかりやすく、おもしろかった。今度超音波の検査をしても安心して受診できると思う。その他は健康チェックで血管年齢が測定できて良かった。来年も参加したいと思う。(60代女性)

●マッサージ(緩和ケア)がとてもすばらしく感動しました。90才の父にぜひやってあげたいと思いました。(60代女性)

●高齢者体験は本当に衝撃的でした。元気で健康であることの良さを切実に感じました。(60代女性)

【次回も参加したい】

●初めて参加しました。来年もよろしくお願いいたします。中央病院がたよりです。よろしく!

●また参加して、楽しく学びたいと思いました。医療や介護はとても大切だと思いました。(20代女性)

お話し：歯科・歯科口腔外科 部長
秋葉（あきば） 正一（まさかず） 医師

Q 歯科CTで、どのようなことが分かるのですか？

A 初めに通常のCTの説明をします。CTとはComputed Tomographyの略称で、X線を照射し、通過したX線量の差をデータとして集め身体の内部を画像化する断層撮影法です。画像を3次元的に表すことが出来るため非常に有効で、今の医療には欠く事の出来ない診断機器です。医療系のテレビドラマでレントゲン写真を前に担当医が説明する場面がありますが、大抵はこのCT写真が用いられていますので、ご覧になっている方も多いと思います。

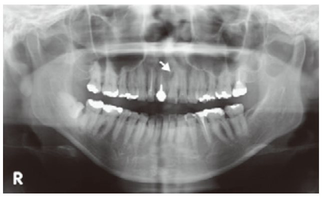
体の内部をみることが出来る極めて有用な機器ですが、そのCTも歯科的にみると弱点があります。それはCT装置のX線が金属に当たるとアーチファクトが現れる（反射し画像が乱れてしまう）ため、金属冠や金属の詰め物が入っている口腔内では必要な情報が得られない事です。更に歯科医が診断に必要としている情報は、歯根とその歯根を支えている歯槽骨と呼ばれている周囲の骨が中心です。身体に比べて極めて狭いエリアの歯とその内部の情報を対象としているため、歯科では一般的にはあまり利用出来ませんでした。

歯科の病気は元々歯に原因がある場合がほとんどですから、その診断にはレントゲン撮影が欠かせません。個々の歯を診るのには、口腔内に小さなFilmを入れて撮影する方法（口内法）が最も精度が高く鮮明に見え、今まではそれで診断・治療を行っていましたが、出来上がる写真は2次元で立体的には見えないため、厚みのある歯の内部の状態や歯根周囲の骨の状態については、経験から推測するしか方法がなく、たとえば歯根の破折などは疑っても他に症状が出現するまでは、積極的な治療ができずに様子を見るだけでした。

そこで歯科CTの登場です。歯科CTは歯の内部構造を調べるために開発されたものですので、歯とその周囲の硬組織の描出に威力を発揮致します。歯科専用機種ですので、CTの弱点である金属のアーチファクトも最小限に抑えるよう、画像処理がなされています。

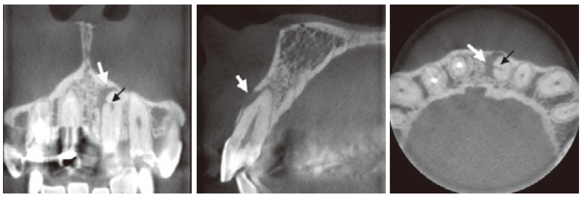
非常に長い前置きでしたが、「歯科CTで、どのようなことが分かるのか？」について答えます。それは歯やその周囲の骨や軟組織が高精細の3D画像で表現されるため、歯を輪切りにしたり、縦や横方向に切断した画像を作ることが出来ます。歯の内部の根管（いわゆる神経のあるところ）の走行も明瞭に分かります。結果として病気の原因部位や広がり、根破折部位、根管治療（根の治療）の状態はもちろん、下顎埋伏智歯（親知らず歯）と神経・埋伏過剰歯（余分な歯）と周囲との位置関係、デンタルインプラントをアゴの骨に植える時には注意すべき解剖学的な構造、骨の幅・高さ・硬さなどが分かります。そのために診断に迷うことが少なくなり、より良い治療が可能となります

旭中央病院は最高機種を導入しました。近隣の歯科医院との共同利用も進めておりますので、今後は撮影のために旭中央病院放射線科に行くように指示されることがあるかもしれませんね。

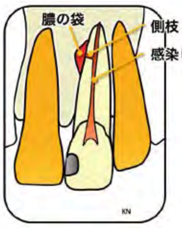


訴え：鼻の下に違和感がある
パノラマ像で異常を発見（矢印）

口内法写真で異常を確認
白矢印部の骨が消失している

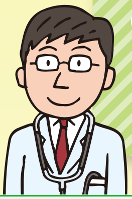


歯科CTで病気とその原因が判明
病名：慢性根尖性歯周炎
矢印白が病変部、矢印黒がその原因の側枝
＊側枝：歯の神経の通り道にある脇道



写真の解説

当院では、地域医療連携の取組みとして「二人主治医制」を推進しています。これは総合的な診療と専門的な診療をそれぞれ別の主治医が担うことで、二人の主治医が連携しながら患者さんの状態に最も適した医療を提供する、つまり患者さんを二人の医師が支える体制を言います。ここでは、当地域のかかりつけ医として、皆さんの身近にある医療機関を紹介します。



かかりつけ医を持ちましょう
～連携医療機関のご紹介～

第12回 大野眼科(銚子市)

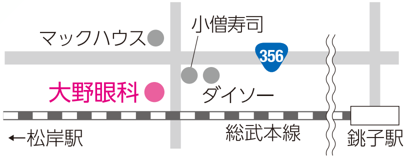
施設の特徴 平成2年7月開院。院内はバリアフリー設計のため、車いすでも診察室までのスムーズな移動が可能です。また院長の大野先生は、銚子市医師会長としても、地域全体の健康増進に尽力されています。

■所在地：千葉県銚子市本城町4-564
■電話：0479-25-1888
■診療科：眼科

診療日・時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00-12:30	○	○	×	○	○	○	×
14:30-18:00	○	○	×	○	○	○	×

休診日：水曜、日曜、祝日



院長：大野(おおの) 慶周(けいしゅう) 先生 インタビュー

院長：大野 慶周 先生

Q: 当地に開業されて26年と伺いました。いらっしゃる患者さんの年齢構成、疾患に傾向はありますか。

A: 年齢構成は子供2.5割、成人2.5割、高齢者5割です。多い疾患は、子供や成人は近視やアレルギー、高齢の方は白内障や緑内障、黄斑変性などです。いまはコンタクトレンズを使用している方も多いので、正しい使用方法を身につけてもらうことも役割の1つですね。また糖尿病など目の症状から発見される全身の病気もあります。自覚症状がなく、内科を受診されていない方には、適切な診断を受けられるよう内科の先生をご紹介することもあります。

Q: 診療では、どのようなことを心がけていますか？

A: それぞれの患者さんにとって、「できるだけ良いかかりつけ医」となることが目標です。環境、立場によっては、同じ病気、同じ程度でも治療内容は変わってきますので、眼だけを診るのではなく、身体全体の状態、生活環境、家族構成、ご本人の希望などを伺いながら、最適な診療を相談、提案するようにしています。

Q: 当院眼科は完全紹介制をとっていますので、医療連携について日頃よりご支援をいただき、ありがとうございます。

A: 旭中央病院は「地域と一緒に、より良い医療を提供していこう」という姿勢で、大病院とかかりつけ医の役割分担、連携を推進されていますが、非常に努力をされていると思います。当院でも、網膜剥離(はくり)など失明につながる可能性のある患者さんの場合、旭中央病院へ急なお願いをしなければならないこともあるのですが、野本部長をはじめ、いつも快く対応してくださいますので、感謝しています。その分、我々かかりつけ医の受け持つべきパートについては、役割をしっかり果たしていきたいですね。

Q: 先生は銚子市の医師会長を務めておられますが、今後の課題を挙げるとすれば、どのような点でしょうか。

A: 高齢化に伴い、医師会としても眼科医会としても、在宅医療については考えていかなければならないと思っています。当院でも長年にわたり通われていた患者さんが高齢のため、通院できなくなったというケースが実際あります。目の症状については不安に感じながらも、きっと我慢されているのだと思うのですね。医師個人ですべてを行うには限界がありますから、行政とも協力しながら、地域全体で支えていく仕組みづくりが必要ではないかと思います。

Q: お忙しい毎日だと思いますが、リフレッシュ法は？

A: ゴルフで身体を動かします。眼科医は普段暗いところで、じっとしながら仕事をしていますので(笑)。銚子市医師会・歯科医師会所属の先生方と月1回定例のコンペを行っていますが、仕事を離れて、先生方の普段見られないような人柄に触れられるのも楽しいです。

病院からのお知らせ

1 10月20日より、インフルエンザワクチンの接種を開始します

期間：10月20日（木）～平成29年3月31日（金）

費用（1回）：4,320円 ※予約不要

接種回数：13歳以上…1回　12歳以下…2回（2～4週間隔）

接種対象	成人	小児
受付時間	通常診療日の午前8時～11時	小児科に通院中の人は、受診時に担当医師に相談して下さい。
受付外来	内科	
そのほか	65歳以上の市民には、旭市の予診票が郵送されますので持参してください。届かない場合は、旭市に問合せてください。	旭市内の中学生以下を対象にワクチン接種外来を設けます。 期日/11月9日（水）、30日（水）、12月14日（水）、28日（水） 受付／午後2時～3時 診察・接種/午後3時～

2 地域のイベントに病院ブースを出展します

旭中央病院は、今年も地域のイベントに参加します。

- 11月6日（日）銚子市「健康まつり」：健康相談、糖尿病予防啓発・血糖値測定（予定）
- 11月13日（日）旭市「旭市産業まつり」：乳がん触診模型体験、糖尿病予防啓発、認知症予防啓発、子育て相談・児童虐待防止啓発（予定）

3 第59回市民健康講座のお知らせ

日 時：12月10日（土）14時～16時　場所：旭中央病院　本館3階「しおさいホール」

演題1：「私たちに身近な胃腸のがんをどう予防するか、またできるのか？～大腸、胃がんの最新医学と医療について～」

講師：消化器内科部長　窪田学医師

演題2：「脳外科医からみた生と死・蘇生・そして般若心経 ～「苦」とは何か～」

講師：脳神経疾患センター長　唐澤秀治医師

4 年末年始の休診日について

H28年12月						H29年1月			
26日(月)	27日(火)	28日(水)	29日(木)	30日(金)	31日(土)	1日(日)	2日(月)	3日(火)	4日(水)
通常診療			休診						通常診療

※救急外来は、常時診察を受け付けております。

「こんにちは」へのご意見・ご感想をお寄せください

当広報誌へのご意見・ご感想は、病院内の「ご意見箱」、または広報患者相談課（FAX：0479-62-7690／メール：kouhou@hospital.asahi.chiba.jp)までお寄せください。冬号の発行は2017年1月を予定しています。

こんにちは　2016年 10月 vol.12
発行者：地方独立行政法人 総合病院 国保旭中央病院
発行責任者：田中 信孝
医療監修：渡邉 三郎

地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院
千葉県旭市イ-1326番地　☎(代)0479-63-8111　www.hospital.asahi.chiba.jp

病床数：989床　診療科数：40科　1日平均外来患者数：約2,548人（2015年度）
年間救急受診者数：約48,000人（2015年度実績）